



イーレックス株式会社[9517]

日本を代表する再生可能エネルギー
リーディングカンパニーを目指して

2019年3月期 第3四半期
決算補足説明資料

本資料は当社グループの企業情報などの提供の為に作成されたものであり、国内外を問わず、当社の発行する株式その他有価証券への勧誘を構成するものではありません。

本資料に記載される業界、市場動向又は経済情勢等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、弊社はその真実性、正確性、合理性及び網羅性について保証するものではなく、また、弊社はその内容を更新する義務を負うものでもありません。

また、本資料に記載される弊社グループの計画、見通し、見積り、予測、予想その他の将来情報については、現時点における弊社の判断又は考えにすぎず、実際の弊社グループの経営成績、財政状態その他の結果は、国内外のエネルギー政策、法令、制度、市場等の動向、弊社グループの事業に必要な許認可の状況、土地や発電設備等の取得・開発の成否、天候、気候、自然環境等の変動等により、本資料記載の内容又はそこから推測される内容と大きく異なることがあります。

本資料に関するお問い合わせ先
イーレックス株式会社 IR広報室
Mail: ir.info@erex.co.jp

決算概要

～2019年 3月期 第3四半期～



2019年第3四半期は前年と比べ、大幅な増収増益
2019年第2四半期以降の施策が有効に機能し、修正計画に対して概ね計画通りの結果

(単位：億円)

	2018年3月期 第3四半期 (実績)	2019年3月期 第3四半期 (計画)	2019年3月期 第3四半期 (実績)	前年同期比		計画比	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	111.0	163.2	162.5	+51.4	+46%	-0.8	-0%
営業利益	8.3	10.2	9.9	+1.6	+19%	-0.3	-3%
経常利益	7.8	9.4	9.0	+1.2	+16%	-0.4	-4%
親会社に 帰属する 四半期純利益	5.0	6.8	6.6	+1.6	+33%	-0.2	-3%

(単位：億円)

	2019年3月期 第3四半期 累計実績	前年同期比	2019年3月期 着地見込 (通期)	進捗率
売上高	470.6	+42%	656.6	72%
営業利益	28.3	-14%	43.8	65%
経常利益	25.5	-18%	39.6	64%
親会社に 帰属する 四半期純利益	15.7	-17%	25.1	63%

2019年3月期第3四半期 決算概要(累計)

2019年3月期第3四半期の累計は、昨年比、増収、上期実績の影響により減益
修正計画に対しては、概ね計画通りに推移

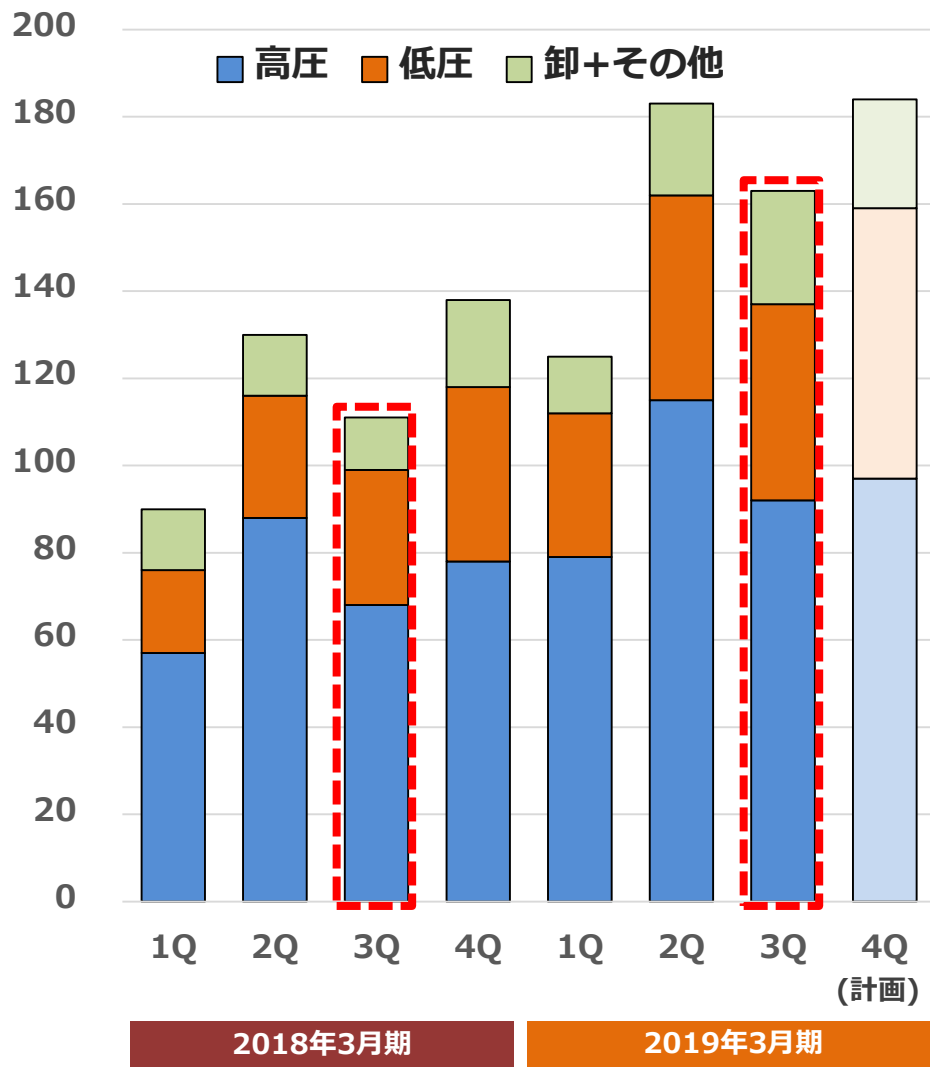
(単位：億円)

	2018年3月期 第3四半期 累計 (実績)	2019年3月期 第3四半期 累計 (計画)	2019年3月期 第3四半期 累計 (実績)	前年同期比		計画比	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	330.5	471.4	470.6	+140.1	+42%	-0.8	-0%
営業利益	32.9	28.7	28.3	-4.5	-14%	-0.3	-1%
経常利益	30.9	25.9	25.5	-5.4	-18%	-0.4	-2%
親会社に 帰属する 四半期純利益	19.0	15.9	15.7	-3.2	-17%	-0.2	-1%

売上高、利益共に計画通りに推移

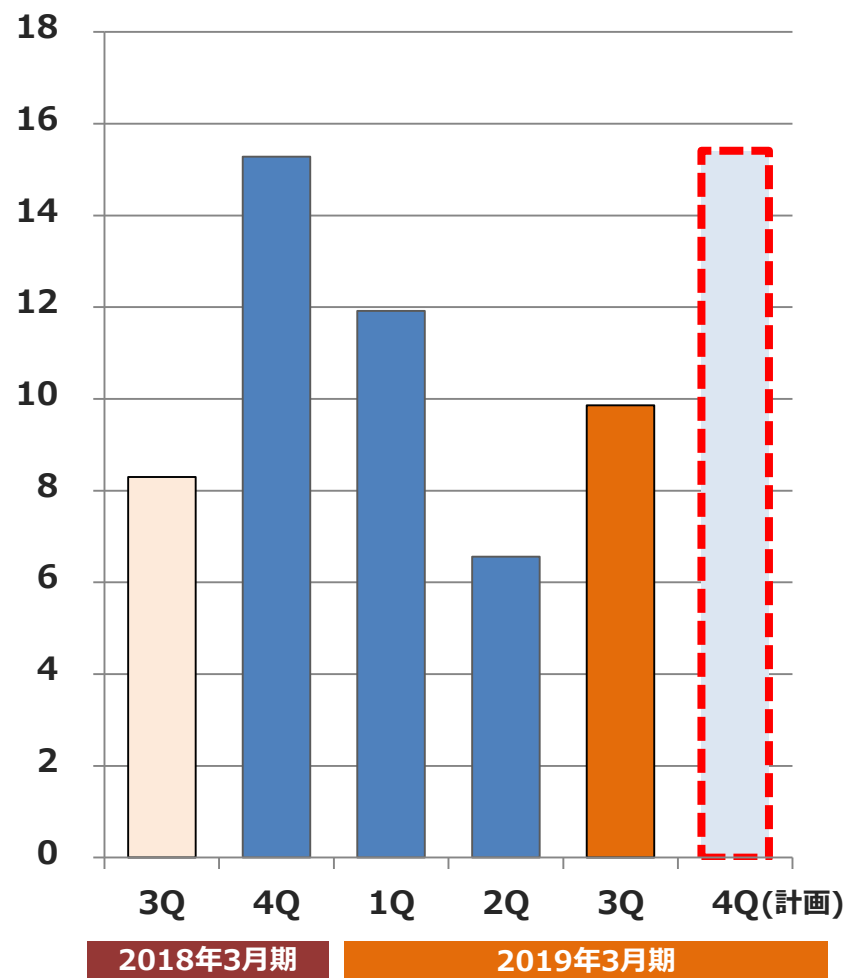
- ① 販売電力量の順調な増加
- ② 自社発電所安定稼働
- ③ 新たな相対取引先による調達電源の増加
- ④ 市場(JEPX)からの電源調達コスト低下
- ⑤ 経費見直しによるコスト削減(累計-3.9億円)

(単位：億円)



- 2019年3月第3四半期は、売上高162.5億円達成(前年同期比+46%)
- 高圧小売は、採算重視の営業戦略の下、堅調な需要に支えられ、売上増(前年同期比37%)
- 低圧小売は、産経新聞販売代理店とパートナー契約を締結し、電気の全国(沖縄除く)販売及び首都圏におけるガス販売を開始するとともに、アライアンス多様化により、売上大幅増(前年同期比+43%)

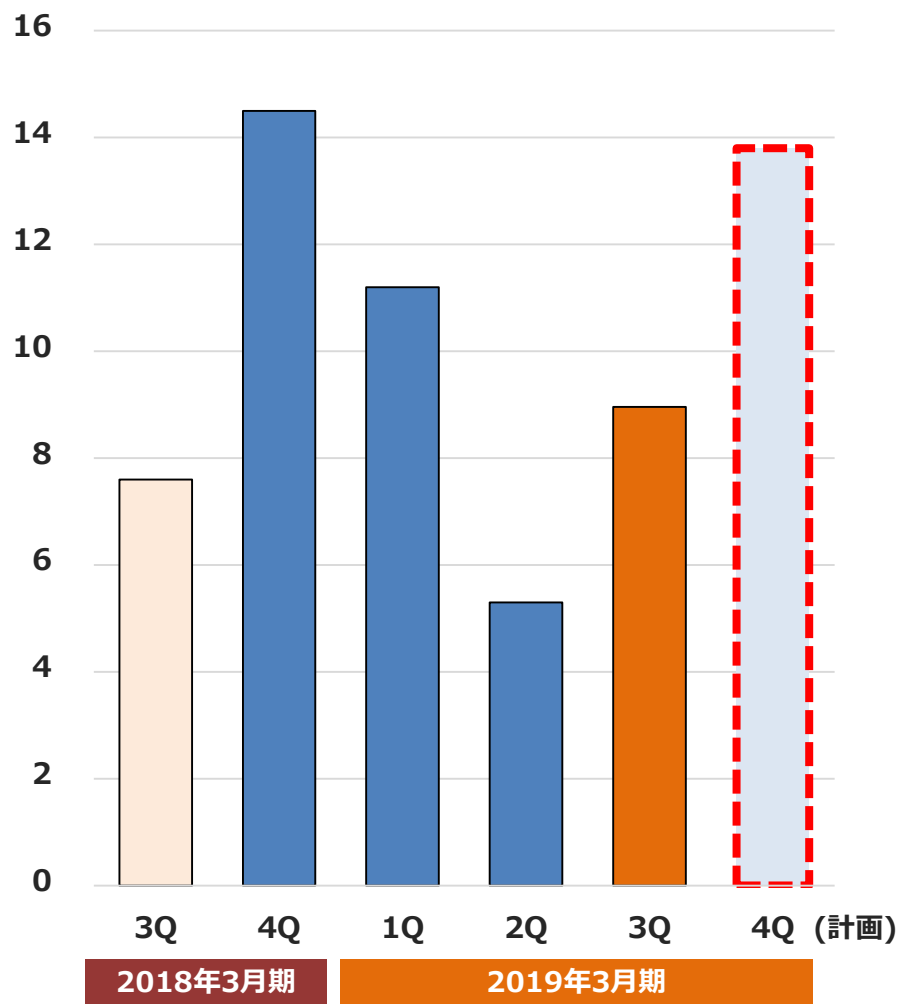
(単位：億円)



- 2019年3月期第3四半期は計画を達成。営業利益9.9億円(前年同期比+19%)
- 自社発電所は定期修繕を計画実施。定期修繕後は、最大運転を継続。
- 自社トレーディング部門により、相対取引とJEPXの仕入割合を最適化。
- 暖冬により JEPX価格が低下。
- 経費見直しによるコスト削減継続。

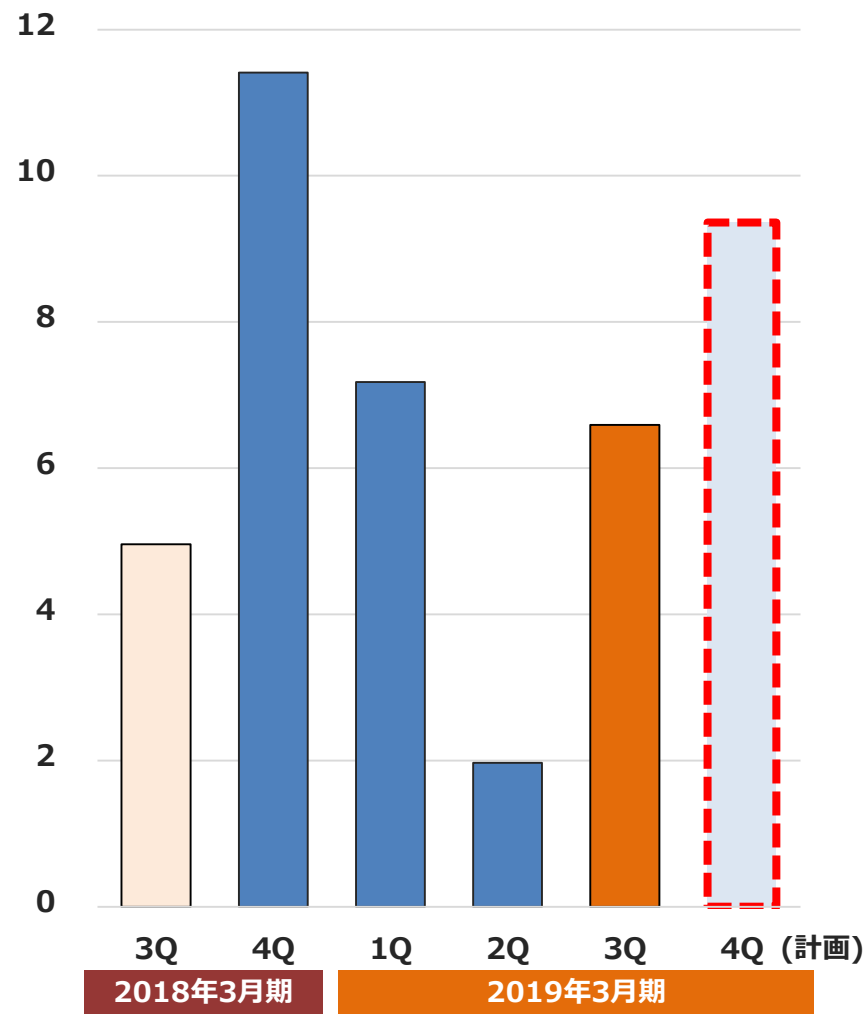
經常利益

(單位：億円)



純利益

(單位：億円)



連結貸借対照表の概要

(単位：億円)



	2018年 3月期末	2019年3月期 第3四半期末		
		実績	増減額	主な増減要因
流動資産	237.8	215.7	-22.1	
固定資産	305.9	434.7	128.8	・豊前発電所+100.1億円、うるま発電所+23.1億円、 工事代金一部支払
繰延資産	0.0	0.0	-0.0	
資産合計	543.8	650.4	106.6	
流動負債	166.2	164.1	-2.1	・短期借入金返済-6.0億円
固定負債	199.0	266.7	67.7	・長期借入金（工事代金支払いに伴うもの） 豊前NE+81.4億円、うるまNE+16.0億円、返済-14.1億円
負債合計	365.2	430.8	65.6	
株主資本	180.5	190.9	10.4	・当期利益+15.7億円、配当-6.1億円
その他の包括利益累計額	-37.5	-21.2	16.3	
非支配株主持分	35.6	49.9	14.3	・増資による増加（豊前NE+7.4億円、うるまNE+6.0億円）
純資産合計	178.6	219.6	41.0	
現金及び預金	124.6	75.5	-49.1	・工事代金の支払い等
有利子負債	211.8	288.2	76.5	
自己資本比率	26.3%	26.1%	-0.2%	

修正計画(当期純利益:25.1億円)に加え、 第4四半期に見込まれる新たな施策の実行

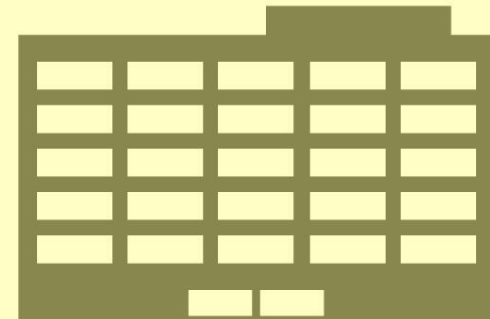
- ① 1月より価格競争力のある相対電源調達による収益増加
- ② 暖冬によるJEPX価格低下を考慮した電源調達
- ③ 小売電気事業による新チャネルの有力パートナーとの提携

来期以降に繋がる重点施策

- ① 同業他社との協業を検討
- ② 建設、計画中のバイオマス発電プロジェクトの推進
- ③ non-FITメガバイオプロジェクト実行可能性調査の進捗
- ④ バイオマス燃料の安定調達の強化と外部販売の拡大

➤ 新たな時代を見据えた、小売電気事業の再構築と更なる付加価値の実現

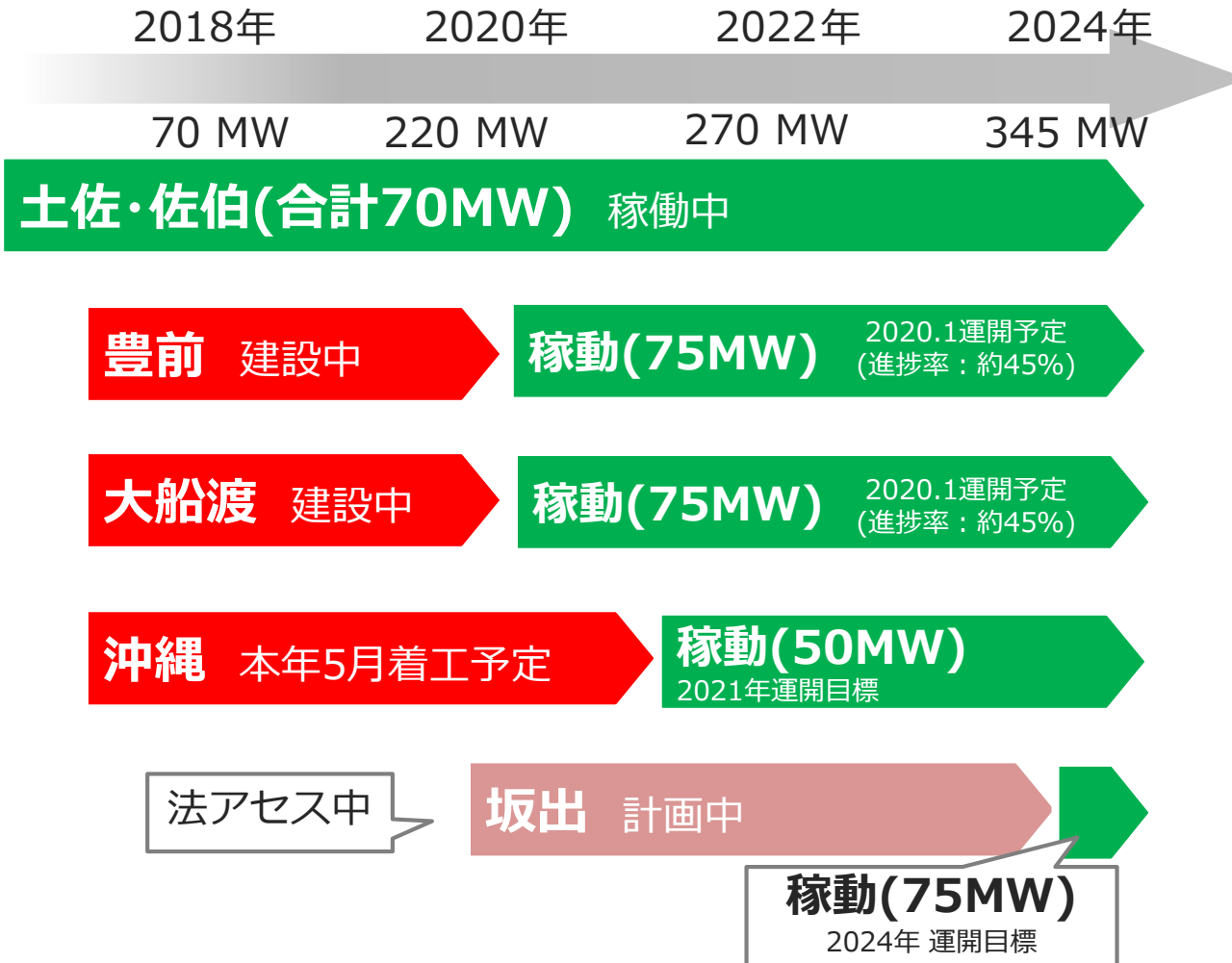
- ・ 再生可能エネルギー事業の強化(RE100企業への電力供給の拡充等)
- ・ デジタル化による省エネルギー化を含めた各種ソリューション提供



同業他社

② 建設、計画中のバイオマス発電プロジェクトの推進

- 各プロジェクト予定通り進捗
- 2020年度には豊前、大船渡の発電所が稼働し、収益に貢献



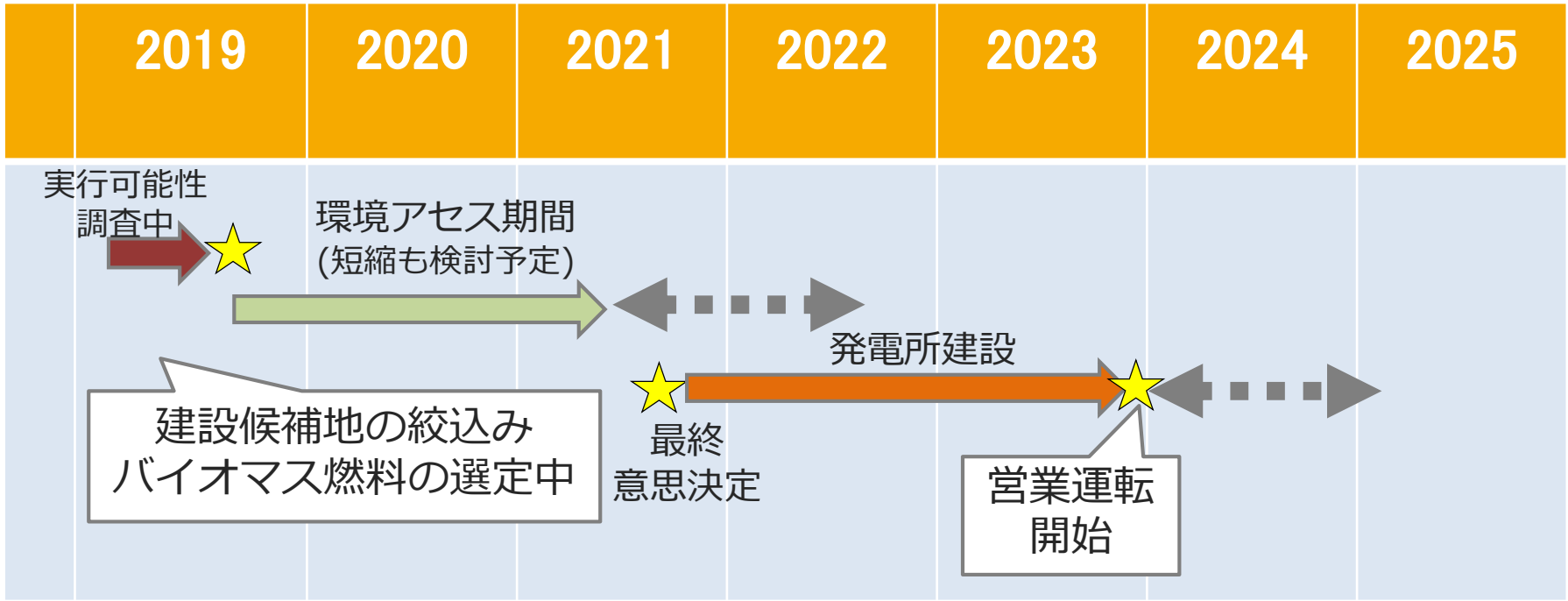
豊前発電所建設状況
(2018/9月)



大船渡発電所蒸気ドラム上架式
(2018/10月)

- 固定価格買取制度を使用しない日本発の大型バイオマス発電プロジェクト
- CO2フリーのベースロード電源として、RE100企業へ供給を前提
- 地元共生を重視

発電所建設スケジュール(300MW)【予定】

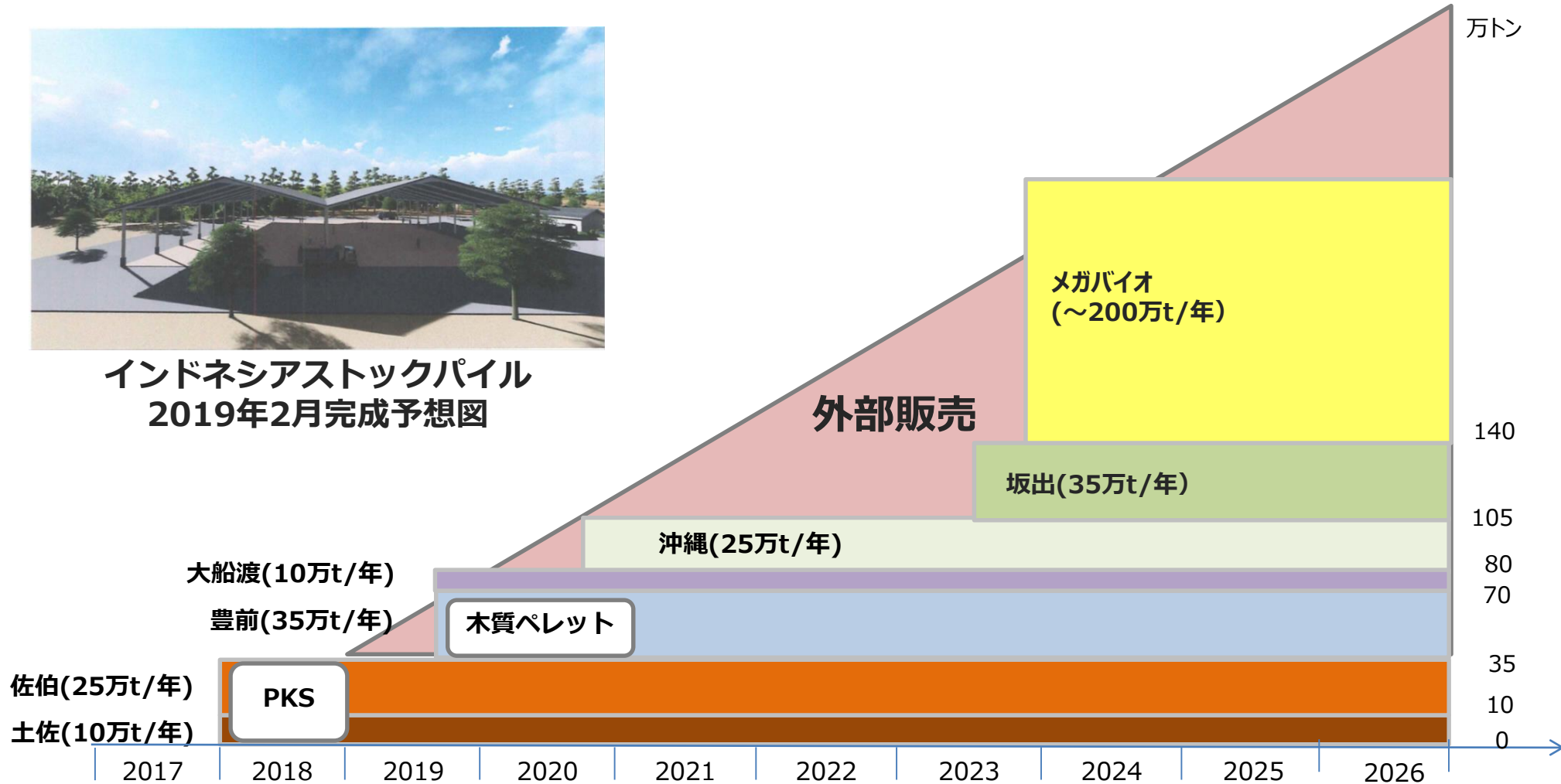


④ バイオマス燃料の安定調達強化と外部販売の拡大

- 燃料調達強化に伴い、新規顧客との長期/スポット契約交渉中
- 自社調達としてマレーシアに続き、インドネシアに自社ストックパイル(PKS集積場)完成予定



インドネシアストックパイル
2019年2月完成予想図



- 自社調達PKSを積んだマレーシア発の輸送第一船、第二船が佐伯発電所に到着
- 第三船の輸送も決定済み



マレーシア/初出荷の様様



マレーシア/PKS貯蔵庫

erex

ENERGY RESOURCE EXCHANGE